

神奈川大学 後援会報



設立50周年記念ロゴコンペ 最優秀賞作品

在学生の保護者で構成される神奈川大学後援会は、
2025年12月に設立50周年を迎えました。
記念の年にあたり、後援会役員が中心となって、
各種記念企画を運営しました。

CONTENTS

- 後援会より P2
- 2026年度 保護者説明・懇談会 P3
- 後援会50周年記念事業のご紹介 P4
- ロゴマークコンペティション作品紹介 P6

後援会
より

学生の成長を支える「神奈川大学後援会」とは

神奈川大学後援会は、学生の充実した大学生活を支援し、大学と保護者をつなぐことを目的に設立された組織です。全国のご父母・保証人の皆さまが会員となり、保護者説明会や奨学金支援、広報活動などを通して学生を応援しています。この後援会の運営を担う役員と運営委員を以下に紹介します。

後援会役員紹介

会長 西脇 幸二
副会長 樋口 義博 (法学部4年)
副会長 平野 清子 (経済学部4年)
副会長 中原 有子 (国際日本学部3年)
副会長 佐藤 靖純 (工学部3年)
監事 林部 正明 (特別会員)
監事 庭野 章彦 (特別会員)
監事 石川 正剛 (国際日本学部4年)
顧問 伊藤 正芳 (特別会員)



役員会の様子

運営委員紹介

1年生

佐々木 美香 (法)
寺田 篤 (経済)
中路 真理 (経済)
真下 民子 (経済)
山口 貴子 (経済)
古澤 千裕 (経営)
山本 真由美 (外国語)
吉田 雅彦 (国際日本)
清水 俊作 (人間科)
岩崎 直美 (理)
山田 静子 (工)
平山 耕司 (化学生命)

2年生

田中 幸美 (法)
鈴木 知美 (経済)
中村 雄次 (経営)
西山 久美 (経営)
吉田 優子 (経営)
阿部 道子 (外国語)
松本 達也 (国際日本)
藤岡 彩 (人間科)
清野 知子 (理)
宮城 愛 (工)
廣瀬 藍子 (工)
坂本 美由紀 (建築)

3年生

大竹 由佳 (法)
後藤 哲哉 (法)
百井 真理 (経済)
落合 いくこ (経営)
横山 幸絵 (経営)
笠井 愛子 (外国語)
森 小織 (人間科)
細屋 智代 (理)
的場 沙織 (情報)

4年生

高橋 まゆみ (法)
林 規衣 (経済)
豊川 錠子 (国際日本)
高田 泰行 (国際日本)
金子 理恵 (国際日本)
蓼沼 あゆみ (人間科)
櫻井 由香 (建築)

サポートガイド(冊子・デジタル版)のご案内

学生生活をサポートする情報を保護者目線で掲載しています

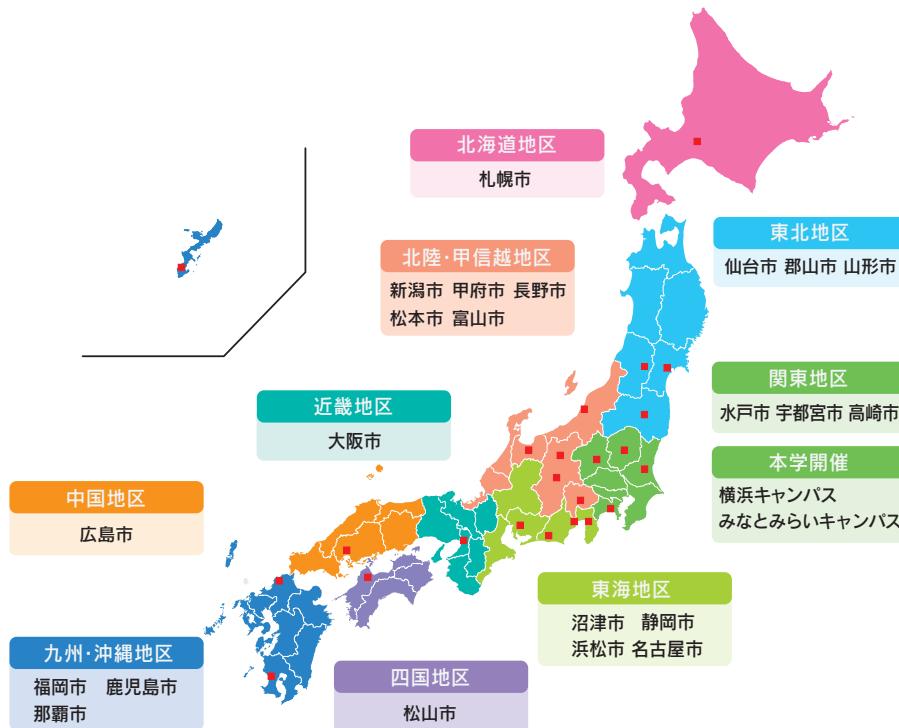
- 主な掲載内容
- 学費、奨学金制度
 - 課外活動(クラブ、サークル)
 - 履修登録方法、成績通知表の見方、卒業要件の確認
 - 語学研修、派遣交換留学制度
 - 就職支援プログラム、U・Iターン就職、公務員・教員採用試験
 - 学年暦(年間行事日程表)

冊子版は新入生の保護者向けに配布しています。2年生以上の保護者の方はデジタル版をご覧ください。





2026年度 保護者説明・懇談会開催予定地



横浜・みなとみらい
両キャンパス+全国22会場で
開催決定!!



参加者の質問に答える大学教職員（那覇）

参加者の声

- 就職説明会担当の方のお話しさは、内容も分かりやすく、宇都宮で就職したくなる位よかったです。(4年生:宇都宮会場)
- 学長と同じテーブルで少し緊張しましたが、とても気さくな方で、お話も大変参考になり、参加して本当に良かったと感じました。また、同席した保護者の方々と自然に交流できるきっかけもいただき、心より感謝しております。個別相談でも丁寧にご対応いただきました。(1年生:高崎会場)
- 入学式以降、子どもと直接会う機会がなく、大学での様子を電話で聞くことはあっても、なかなか全体像がつかめずにいました。今回、説明会や懇談会で実際にお話を伺うことができ、とても安心いたしました。余談ですが、あの会場の雰囲気がまるで横浜にいるような錯覚を覚えるほど素敵で、楽しく参加させていただきました。(1年生:山形会場)
- 学生生活の入口から出口までを限られた時間の中で、分かり易い説明で理解できました。特に就職については子供だけの問題とせず、保護者もしっかり子供のことをサポートしなくてならないと考えさせられました。(2年生:新潟会場)
- 初めて出席させていただきましたが、一言で言えば「もっと早く参加していればよかったです」と感じるほど、有意義な機会でした。特に、個別相談を希望していなかったにもかかわらず、丁寧にご対応いただき、さらに後日にはメールで詳しいご説明までいただき、心より感謝しております。あらためて、この大学のサポート体制の手厚さを実感いたしました。(3年生:長野会場)
- テーブルで学長と対話でき、部活動と学業ともに学内で充実して過ごしているような感触を受けました。遠く離れていても、安心できる場を作ってくれる地域での懇親会に感謝しております。(2年生:那覇会場)

保護者説明・懇談会について

神奈川大学後援会は、大学の最新情報や学修・学生生活・就職・健康管理などの修学上の重要なポイントやサポート体制等について理解を深めてもらうため、毎年5月～9月頃に各キャンパス及び地方会場で保護者説明・懇談会を開催しています。保護者同士や大学関係者、後援会役員との交流を深める場となっており、ご参加いただいた皆さまからは、「大学のことがよく理解できた。」と大変好評をいただいている。皆さま、ぜひご参加ください。



保護者説明・懇談会（水戸会場）の様子

※開催日時や会場等は、現在調整中です。2026年度の詳細については後援会ホームページで4月中にお伝えします。
なお、最新情報は神奈川大学後援会公式LINEでも随時発信しています。

後援会 HP QR コード





後援会 50周年記念事業のご紹介

神奈川大学後援会は、今年設立50周年を迎え、下記の記念事業を実施しました。

- 学生による後援会ロゴコンペ
- 「ジンダイアケボノ(桜)」記念植樹
- 後援会ランチウイーク企画
- 「50円朝食」(詳細は No.99 後援会会報をご覧ください)は引き続き実施しています。

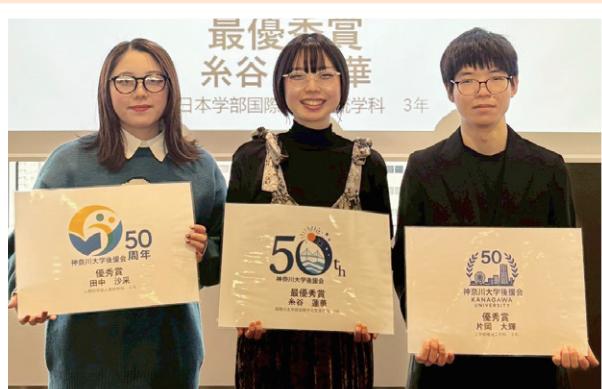
今回は、「後援会ロゴコンペ」「記念植樹」「ランチウイーク」の様子をお伝えします。



記念式典で挨拶する西脇会長

ロゴコンペ

後援会設立50周年を記念して募集したロゴマークデザインが投票を経て決定しました。
最優秀賞1名、優秀賞2名を紹介します。



最優秀賞 糸谷 蓮華さん

(国際日本学部国際文化交流学科 3年)

自分のデザインが多くの方の目に触れると思うと少し恥ずかしさもありますが、それ以上に誇らしい気持ちでいっぱいです。今回の経験を励みにこれからも自分の表現力を磨き続けていきたいです。



優秀賞 片岡 大輝さん

(工学部機械工学科 3年)

多くの方に作品を選んでいただけたことが何より励みになりました。今回の受賞を糧に、宇宙エレベーターのプロジェクトでも、自分の考えを形にする挑戦を続けていきたいと思います。



優秀賞 田中 沙采さん

(人間科学部人間科学科 4年)

今回の制作を通して限られたビジュアル要素で思いを伝える難しさと面白さを実感しました。この挑戦は、自分の成長を実感できる貴重な機会となりました。

記念植樹

「ジンダイアケボノ(桜)」は、後援会40周年事業の一つとして湘南ひらつかキャンパスに植樹されました。湘南ひらつかキャンパスの移転に伴い、50周年事業として横浜キャンパス3号館前・新東門のスペースに再び植樹されました。



ランチウィーク

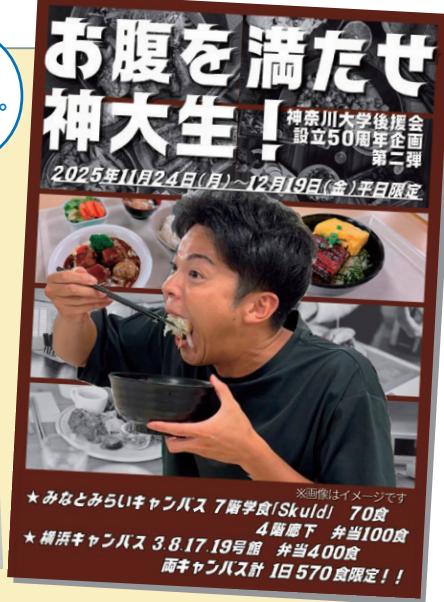
学生の昼食支援を目的にランチ企画を実施しました。後援会より1食あたり500円を支援してワンコインランチが実現しました。



9種類でメニューが豊富。
選ぶのが楽しい!
ワクワクする。



デザート付きで、
この価格はありがたい。
嬉しい



ボリューミーで
うまい



毎日食べたい



高級感があり、
魅力的なメニュー

お弁当は簡単に
手に取れて良い



いつもありがとうございます。



ワンコインでコスパ良い



調理担当シェフのコメント

学生が喜ぶお弁当をつくろうと学生や職員の意見を取り入れてランチウィーク500円弁当が実現しました。

編集後記

後援会設立50周年を迎えるにあたり、在学生の保護者を代表して50年に一度の記念事業に自分たちが関わることができるのは、特別なことだと感じ、楽しく取材することができました。今後も保護者の目線で学生の姿を伝えていく誌面を作っていくことを思っています。



つながりの50年をかたちに

ロゴマークコンペティション作品紹介

50



神奈川大学後援会は、2025年12月に設立50周年を迎えました。この節目にあたり、後援会の理念と活動を象徴する新たなロゴマークを広く募集しました。

「大学・支援・つながり・成長・希望」をテーマとし、数字「50」をモチーフに取り入れながらも、周年表記を外しても使用できる汎用性のあるデザインが求められました。採用作品は今後、広報物やウェブサイトなどで継続的に使用し、後援会のシンボルとして長く活用されます。今回のコンペティションには、在学生から22点の応募が寄せられました。一次審査では後援会委員による選考を行い、最終審査は在学生の保護者による投票結果をもとに、最優秀賞1点、優秀賞2点を決定しました。

50年の歩みと次の時代をつなぐ新しいシンボルとして、多彩な感性が結集した応募作品をご紹介します。

応募総数 22作品
(最優秀賞1点／優秀賞2点／一般作品19点)

募集期間 2025年7月14日(月)～8月8日(金)必着

審査方法 一次審査：後援会ロゴコンペ選考委員による選考
最終審査：ロゴコンペ選考委員および後援会公式
LINEによる保護者投票



糸谷 蓮華 (国際日本学部国際文化交流学科 3年)



神奈川大学後援会

作品に込めた思い

様々な偶然が重なりこの大学に入学しましたが、その後は仲間や学びに恵まれ、充実した学生生活を送ることができました。その感謝の気持ちを形にしたいという想いから、制作の過程では「大学への恩返しになるデザイン」を一番大切にしました。完成したロゴを見たときは、自分なりの想いが形になった嬉しさで胸がいっぱいになりました。



横浜の魅力であるみなとみらいの花火、横浜ベイブリッジ、海を「0」の中に描きました。花火と太陽を重ね、学生の明るさと未来への希望を表現しました。爽やかな配色にし、色や配置は神奈川大学のロゴを意識しました。



片岡 大輝 (工学部機械工学科 3年)



神奈川大学後援会
KANAGAWA
UNIVERSITY

作品に込めた思い

制作では、誰が見ても直感的にわかりやすいこと、そしてシンプルで親しみやすい形にすることを大事にしました。神奈川大学が横浜にあるという点を意識し、みなとみらいの風景をモチーフにデザインを組み立てました。コンセプトをどうするか考える際はすごく悩みましたが、完成したロゴを見たときには「意外とうまくできたかも」と思えるものできました。



神奈川大学のロゴの色に近い色で作成しました。横浜のデザインを取り入ればっと見てどこにあるかわかるようなデザインにしました。



田中 沙采 (人間科学部人間科学科 4年)

作品に込めた思い

制作にあたって最も大切にしたのは、「支援の輪が未来へつながっていくイメージ」を抽象的に、かつ誰が見ても分かりやすく表現することでした。色の配置や形のバランスを調整しながら、学生・保護者・大学の三者が支え合う姿を丁寧にめていきました。完成したロゴを見たとき、形になった安心感と同時に、大学の伝統に自分が少し参加できたような誇らしさがありました。優秀賞として評価していただけたことに大きな励ましを感じました。



このロゴは、神奈川大学後援会の50周年を祝う節目にふさわしく、大学と支援者、学生のつながりを象徴しています。円は永続的な絆と成長の循環を表し、中心の人のシルエットは未来へ羽ばたく学生を示唆しています。青は知と信頼、緑は成長と希望、黄色は温かな支援を表現し、三者の調和を視覚化しました。半世紀の歩みと新たな挑戦を包み込むデザインで、大学と地域、支援者が共に築く明るい未来を力強く発信します。

No.01

瀧口 真由 (工学研究科工学専攻経営工学領域 1年) (大学院生)



「50」のゼロの中に、後援会の方（青い人物）が大学生（帽子をかぶったオレンジの人物）に寄り添い支える姿を描き、支援とつながりを表現しました。頭上の太陽は、成長と明るい未来への希望を表しています。また、「神奈川大学後援会」の文字をアーチ状に配置し、大学・学生・保護者をつなぐ架け橋のような存在であることを表現しました。全体は、スクールカラーの「プラウドブルー」を基調としています。

No.02

泉 拓孝 (工学部機械工学科 2年)



神奈川大学は「在学生の父母」を中心に発展した団体ということで、親子をイメージしたデザインにしました。また、神奈川大学のシンボルとして横浜キャンパスの8号館をかわいくアレンジしています。

No.03

高橋 世凪 (工学部機械工学科 3年)



輪のモチーフにより、後援会が在学生・保護者・大学をつなぐ支援の象徴であることを表現しました。重なる円弧は協力と継続の意味を持ち、青の濃淡は知性と誠実さ、そして空や海のような未来への広がりや希望を示しています。シンプルかつ明快な構成により、印刷物・Web・SNSアイコン・バッジなど多様な媒体で使用可能です。配色のコントラストにより小さなサイズでも視認性が高く、モノクロ印刷や刺繡などにも対応しやすい設計です。「50」の数字を外しても、「0」の中に配置された重なり合う弧が、支援とつながりを象徴するシンボルとして成立するため、周年記念後も後援会のロゴとして長期的に活用できる汎用性があります。

No.04

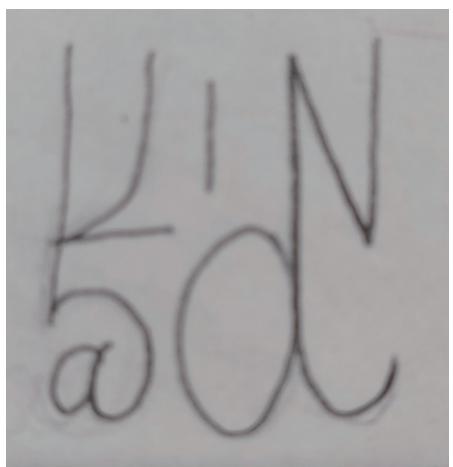
守屋 練太郎 (人間科学部人間科学科 4年)



「支えてきた 50 年、つなげる未来」
このロゴは、後援会が半世紀にわたり学生と大学
を支えてきた「縁」と「誇り」、そしてこれから
も続く未来へのつながりを表現しています。

No.05

孫 笑顔 (理学部理学科物理コース 1年)



左上がりいびつな K、右上が N、左下のちっちゃい
丸が a、右下も a、真上が川、真下は 50 という
数字を型取りました。

No.06

福田 桃芭 (法学部自治行政学科 2年)



本を開いた形に見えますが、視点を変えると羽ばたく鳥にも見える形で学び舎から巣立つ生徒や卒業生の未来への飛翔を表現し、神奈川の象徴であるカモメや大学のマスコットを思わせる形状に工夫しました。学びを芽生えとして表現し、その下には成長を支える後援会の存在を重ね、支援と成長の関係性を一つの形に込めました。スクールカラーのプラウドブルーを基調に、サブカラーも取り入れ、大学のアイデンティティも強調しています。

No.07

橋本 瞳美 (経済学部経済学科 1年)



モチーフは「今にも咲きそうな花の蕾」で、この蕾が成長してきれいな花が咲く未来を想像し、それと〈成長〉・〈希望〉を重ね合わせ描いた。〈大学〉の中には、「誰一人同じ人がいない」ことから、花びらはすべて異なる色で描いた。また、花びらの重なりは〈つながり〉をイメージしている。さらに、50周年記念ということで、花びらは5枚描いた。二枚の葉は〈支援〉を表しており、大学をイメージした蕾を暖かく包み込んでいる。

No.08

櫻井 莉子 (化学生命学部応用化学科 2年)



このロゴは、5の部分を取り除いても長く使用できるようにデザインしました。0の中には、未来への成長を象徴する芽を配置しました。輝く星は希望を表現しています。背景の橋は横浜のベイブリッジをイメージしており、横浜で育つ神奈川大学の学生たちの未来への架け橋としての意味や、大学内の人と人、また大学と地域社会のつながりを象徴しています。それらを支える手は神奈川大学後援会の支援の象徴となっております。

No.09

佐々木 萌 (経営学部国際経営学科 1年)



太陽で温かみをだし0を演出して、支援・つながりを見せたかったので、手を使い人の温かみを助けるという意味を出しました。
また神奈川大学のカラーであるネイビーをつかいました。

No.10

藤原 慶秀 (工学部機械工学科 1年)



50の0に健やかな緑をイメージした木を描きました。

No.11

澁谷 和果菜 (工学部機械工学科 1年)



全体がスクールコンセプトカラーで構成されており、真ん中には知識を得ることができる本の上に知識と啓発の象徴であるトーチがあり、その周りには神奈川大学みなとみらいキャンパスの周りの施設を描いている。

No.12

寺元 瑛人 (法学部法律学科 2年)



中心に横浜市の象徴、神奈川大学生協のマスコットのモチーフであるカモメを羽ばたかせることによって、市と神奈川大学の希望と成長を表した。また、背景に朝の横浜、今はなき昼の湘南ひらつかキャンパス、そして夜のみなとみらい、3つのキャンパスを配置し、それを六角形で囲むことによって、神奈川大学同士の繋がりや支援、さらには時間帯によって様々な表情を見せる神奈川大学キャンパスの魅力を表現した。

No.13

山科 龍之介 (工学研究科工学専攻情報システム創成領域 2年) (大学院生)



鯨は海洋の炭素循環を担い、海に住まう多くの生命に恩恵を与える存在です。後援会の支援活動もまた社会という海へ出る学生の成長を支える存在として重なり、学生もその存在になれるよう想いを込めて鯨をモチーフにしました。ロゴ左は後援会を表す大人の鯨、右は学生を象徴する子鯨、周年数字はデザインとして着脱可能な海の典型的な社会一員を表す魚群、カラーはプラウドブルーで纏め、全体でKUが見えるデザインしました。

No.14

山口 花心 (国際日本学部国際文化交流学科 1年)



ピースによってできたハートは在学生の父母だけでなく沢山の地域の方々、卒業生、後援会の皆様など、一人一人の想いによって支えられてきた神奈川大学を象徴しています。そして50周年の今、優しさと愛で溢れた大学全体を表現しました。赤色の矢印はその神奈川大学の優しさと愛が世界を変え、これからも未来へと進み続けるという意味を込めて書き、赤はその情熱を表現しています。初めて見る人も一目で分かるデザインにしました。

No.15

萩原 煌 (外国語学部スペイン語学科 2年)



両キャンパスが横浜に位置していることから横浜の街並みをシンプルに描いた。また、日本有数の眠らない街として栄える市であると自信が考えているため太陽と月のマークをデザインした。50周年を記念するロゴの募集であるため「50」の数字を入れたが、省略しても使っていただけるよう他の部分で存在感のあるロゴを作成した。

No.16

徳永 彩七 (経営学部国際経営学科 3年)



大学は帽子と本で、支援はマスコットが羽で包み守る姿で表した。本の中では卒業生と在学生がつながり、互いを想い合い学び合う様子を描いている。双葉は成長の始まりを示し、黄色の差し色は希望の光を象徴。馴染みある神奈川大学マスコットに、これまでとこれからを大切にしながら、学生を支え未来へ導く想いを込めた。

No.17

津田 周慈 (法学部法律学科 3年)



50周年のロゴを作成するにあたり、50周年の5という数字には遠くを見渡すという意味で望遠鏡と、自分の人生の進むべき方向を決めて主体的に行動していくという意味で、舵のモチーフを組み込み、0という数字にはそのような主体的に行動していく学生と、これからの大学の未来を示す羅針盤というモチーフを使用し、羅針盤のふたに「神奈川大学後援会」という名称を入れました。モチーフに統一感を持たせました。

No.18

中川 絵未里 (理学研究科理学専攻生物科学領域 1年) (大学院生)



神奈川大学のオリジナルキャラクターにもなっている、港町・横浜を象徴するカモメを主なモチーフとして採用しました。また、「つながり」や「支援」を表現するために、手をつないでいるイラストを描き、そのつながりによって「希望」のシンボルである虹が現れるようにデザインしています。さらに、「神奈川大学後援会」の文字が記されたリボンの上部には、六角橋商店街のステンドグラスアーチを想起させる縁取りを取り入れました。

No.19

佐野 将誠 (建築学部建築学科 4年)



このデザインは、スポーツ・芸術・勉強という人間の成長を象徴する三要素を、神奈川大学を象徴するマグカップの中に融合させたものです。氷と湯気は温度の矛盾から生まれる未完成さと変化の可能性を示し、横浜らしい開放性と多文化性を背景に、多様な活動が交わり調和しながら発展する神大生の柔軟で創造的な魅力を表現しています。50周年の50は湯気で表現していて、50を外しても使えるようにしました。

審査の様子



すべての応募作品を一つ一つ審査しました



応募作品を審査する後援会ロゴコンペ委員の保護者

講評・謝辞



石川 正剛
後援会ロゴコンペティション
実行委員長
(神奈川大学後援会 監事)

50周年を記念するにふさわしい、多様で創意に富んだ作品を多数ご応募いただき心より感謝申し上げます。本コンペティションは、学生・保護者・教職員がともに「後援会の存在意義」を再確認する契機となりました。審査にあたっては、親しみやすさや普遍性、そして後援会の理念をどのように視覚的に表現できているかを重視しました。どの作品にも、“支える・つながる・育む”という思いが丁寧に込められており、応募者のみなさんの真摯な姿勢と柔軟な発想に深い感銘を受けました。

これからもこのロゴが、神奈川大学後援会の活動を象徴し、次の時代へと続く絆を結ぶ存在となることを願っています。